

2 評価結果

(2) 施策の総合評価

平成 26 年度 施策 総合 評価

施策名	1. 学校教育の充実 2. 子育て支援の充実	主管課	教育総務課
取り組んだ事業全般に関する自己評価	<p>教育総務課の主な事務には、前年同様「教育委員会の会議運営」、「学校施設の整備充実」、「育英資金貸付事業」がある。</p> <p>「教育委員会の会議運営」に関しては、定例会はもとより、必要に応じて開催される臨時会の運営も臨機応変に開催することができた。また、会議録の公表についても、昨年度から引き続き全文公開していたものを市民から見て分かりやすいように要約版にして公開するなど情報公開に積極的に取り組んでいる。課題としては、今以上の女性委員の登用、委員会の傍聴者が昨年同様少なかったことがあげられる。そのほか、平成 27 年度から施行される新教育委員会制度に向けた教育委員の研修等も積極的に取り組み、理解を得られた。</p> <p>次に「学校施設の整備充実」については、限られた予算の中で安心・安全な学校施設の維持に取り組んできた。また、大型事業である芦刈小学校改築事業も完了し、小中一貫校として開校した。</p> <p>「育英資金貸付事業」については、滞納者が昨今の経済情勢や就職難等の多様な諸事情に伴い増加傾向にある一方で、申請者は貸付時期が遅いことや貸付額が少ないこと、高校無償化や他にもいろいろな育英資金貸付制度や奨学金制度があるため減少傾向にある。滞納者へは、督促通知や電話等で催促等を行い、一部完済する者も出てきたが、その一方で新たに滞納する者がでてきており、全体的に見ると変わらない状況である。</p> <p>こういったことから、教育総務課で取り組んだ事務事業全般については、やや不十分な面もあるがおおむね達成できていると自己評価した。</p>		
自己評価総合判定	<p>A 達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 不十分</p>		
評価委員会による総合評価	<p>教育委員会制度に向けた研修など、積極的に取り組まれたことはとても評価できる。</p> <p>教育委員会の会議運営については、十分な実績を果たしておられる。芦刈小学校改築事業完了し、小中一貫校がスタートしたことなど、学校施設の整備充実についても、教育総務課を中心として綿密な年次計画が策定され、個々の事業が実現している。今後は、市内唯一の小中一貫校として三年後、五年後を見据えながら、メリット・デメリットの情報を取りまとめてほしい。</p> <p>「育英資金貸付事業」は、進学を考える子どもにとってありがたい制度であると思う。せっかくの基金等があるので、利用者が後刻返済しやすいように検討し、多くの苦学生に活用されるようにして頂きたい。滞納者が増加傾向にあることは、きめ細かな努力を要するものと思われる。少し踏み込んだ督促の方法など対策が必要だと思うし、貸付決定者には面接をしてはどうか。</p>		
評価委員会総合判定	<p>A 達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 不十分</p>		
取り組んだ事務事業全般の評価を踏まえた平成 27 年度以降の取組の方向性	<p>教育委員会は、各委員の積極的な活動等により十分教育委員会として機能しており、事務局としては、各委員の活動を今までのようにサポートすると共に研修の機会を確保し、広く市民に活動状況を広報していくよう努める。また、女性の委員登用についても目標達成に努める。</p> <p>学校施設整備については、平成 25 年度に策定した小城市立学校教育施設整備計画（第 2 次）に基づき、財政状況を勘案しながら計画的に事業を推進していく。</p> <p>育英資金貸付事業については、昨年同様、滞納者の滞納理由を把握し、それに基づく返済計画の見直しや返済に関する相談を実施し、滞納額を少しでも減らせるよう努めていく。また、貸付時には、決定者について親権者と本人同席で、育英資金の貸付趣旨と返済のことを説明しており、今後もこの点をよく理解していただくよう努めていく。</p>		

施 策 名	1. 学校教育の充実 2. 子育て支援の充実	主 管 課	学校教育課
取り組んだ事業全般に関する自己評価	<p>学校教育課では、「小・中学校教育内容の充実」、「心の問題への対応」、「特別支援教育の充実」、「家庭や地域との連携強化、安全対策の強化」、「学校給食施設の充実と食育の推進」、「教職員の資質向上」、「情報教育の充実」、「地域における子育て支援の充実」に取り組んできている。</p> <p>特に、「地域における子育て支援の充実」においては、放課後児童クラブの運営において定数の改定により、待機児童をなくすことを目標に取り組んできた。また、「情報教育の充実」については、平成24・25年度に整備した校内LAN、電子黒板、学習端末機（タブレット型PC）を活用し、指導方法改善に取り組んでいる。さらに、教職員を支援する支援員の配置などを行い、全小中学校において、全教職員が機器操作の技量を持ち、学習指導に生かすことができるようになってきた。「特別支援教育の充実」についても、子どもサポーターを22名配置するなどして、教育ニーズに応じた指導の充実に努めた。</p> <p>また、学校給食を中心とした食育の実施、各学校における家庭教育の指針の作成・配布、セーフティネット会議を開催しての安全・安心の確保など、事業充実が図られた。</p>		
自己評価総合判定	<p>A 達 成 B おおむね達成 C やや不十分 D 不 十 分</p>		
評価委員会による総合評価	<p>小城市の学校教育は、施設等のハード面も、指導内容・指導技術面においても高いレベルにあると思う。先生たちの教材研究・指導技術の研究も熱心であり、子ども達も着実に学力が身についていると感じている。日頃より先生と子ども達の信頼関係が深まるように、学習指導のみならず、学級活動・学校行事をはじめとする特別活動や他の教育活動分野にも力をいれて、総合的な人間教育を実践して頂きたい。急激に変化していく世の中で子供たちが強く生き抜いていける力をつけるために、学力向上と豊かな人間形成とお互いの信頼関係が築かれる様な教育指導をお願いしたい。</p> <p>「子ども達の心の問題」「特別支援教育」への対応も子供サポーターを22名配置するなど、教育ニーズに応じた指導はとても評価出来る。しかし支援を必要とする子ども達の数は今後ますます増加する傾向にあるし、人的・財政的な配慮が必要になってくる。</p> <p>「教職員の資質向上」、「情報教育の充実」も高く評価したい。電子黒板など、学習用端末機を使用しての授業の充実など、教職員の努力により、学習への活用がうまくできかけていると感じる。しかし、授業全体から行くと使用度は低いように感じる。</p> <p>「家庭や地域との連携」「学校給食施設の充実と食育の推進」も乏しい予算の中、努力されているのが見える。</p> <p>放課後児童クラブの運営については、子どもの立場で検討する必要がある。</p>		
評価委員会総合判定	<p>A 達 成 B おおむね達成 C やや不十分 D 不 十 分</p>		
取り組んだ事務事業全般の評価を踏まえた平成27年度以降の取組の方向性	<p>学校教育については、「小・中学校教育内容の充実」、「心の問題への対応」、「特別支援教育の充実」、「家庭や地域との連携強化、安全対策の強化」、「学校給食施設の充実と食育の推進」、「教職員の資質向上」、「情報教育の充実」、「地域における子育て支援の充実」などを通して総合的な人間教育と豊かな人間形成に努めていく。また、支援を必要とする子ども達についても、十分支援できるよう体制の充実に努めていく。</p> <p>放課後児童クラブの運営については、小学校4年生からの受入を行うことができるように施設の整備及び条例等の改正を進めていく。</p>		

施策名	2. 子育て支援の充実 3. 保育・幼児教育の充実	主管課	保育幼稚園課 (こども課)
取り組んだ事業全般に関する自己評価	<p>こども課では、「保育・幼児教育の充実」に対する3事業を実施した。</p> <p>「保育・幼児教育事業の推進」については、主に私立保育・幼児教育施設への措置事業費を支給した。</p> <p>「職員の資質向上」については、園訪問事業及び小城市幼児教育・保育ネットワーク事業において、園及び職員の資質向上及びネットワークの構築を目的として、事業を実施した。</p> <p>「保育・幼児教育環境の整備」については、保育園での保育ニーズは増加しており、運営している法人と整備計画について協議を行いながら、3法人の施設整備の補助を行なった。</p> <p>事務事業全般としては、翌年度以降に引継ぎ点もあり「おおむね達成」と考える。</p>		
自己評価総合判定	<p>A 達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 不十分</p>		
評価委員会による総合評価	<p>保育・幼児教育事業の推進については、小城市独自の展望を持ち、法人と連携しながら施設整備の補助がなされ、その具現化に努めている。保育園・幼稚園業務の忙しい中において、職員の資質向上のために研修会を設け、毎年その回数も内容も充実してきていることは評価できる。</p> <p>小学校高学年、中学生になってからの心の教育は手遅れだとよく言われる。幼児期において心豊かな心情を育む教育の実践をお願いしたいが、現場を訪ねてみると、先生たちは休む時間もないほど、余りにも多忙である。幼稚園、保育園職員の厳しい労働環境を改善し、「小城市の子どもは皆一緒」という言葉が消えることのないよう、子ども・子育て新制度に現場職員の意見を聞きながら対応し、ゆったり、落ち着いた指導が出来るような教育環境がほしい。</p> <p>幼稚園、保育園の民営化については、保護者や地域住民と十分な協議をして欲しい。</p>		
評価委員会総合判定	<p>A 達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 不十分</p>		
取り組んだ事務事業全般の評価を踏まえた平成27年度以降の取組の方向性	<p>「保育・幼児教育事業の推進」については、保護者の希望に沿った保育・幼児教育施設への入所に努めるとともに、保護者や保育者の意見を聞きながら子ども・子育て支援新制度に対応した保育・幼児教育の推進に努めていく。</p> <p>「職員の資質向上」については、保育士・幼稚園教諭・保育教諭等の基本的な資質の向上はもとより、受講者の意見を取り入れより専門的な研修に努めていく。</p> <p>「保育・幼児教育環境の整備」については、事業者と協議を行い、適正な保育・幼児教育環境の整備に努めていく。</p> <p>公立保育園・幼稚園の民営化事業については、芦刈幼稚園を平成29年度までに、岩松保育園を平成30年度までに民営化を行ない、それ以外の5園につきましては、平成29年度までに年次計画を作成する。また、民営化の実施については、三者協議会（保護者・事業者・市）において、在園児や保護者が新しい園にスムーズに移行できるように十分な協議に努めていく。</p>		

<p>施策名</p>	<p>4. 青少年の健全育成 5. 生涯学習の充実 6. 生涯スポーツの充実 7. 芸術・文化の振興と文化財の保護・活用</p>	<p>主管課</p>	<p>生涯学習課</p>
<p>取り組んだ事業全般に関する自己評価</p>	<p>4.青少年の健全育成</p> <p>小城市青少年育成市民会議の活動を中心に、例年どおりの行事を開催し、ある程度の参加者を得られた。しかし、新規事業の開催には至っていない。本会議では、子どもへの安全対策への取組は力強く行われている。</p> <p>子ども達への、合併を生かした事業として、放課後子ども教室の交流事業を行っているが、参加者数が少ない状況にある。夏休み子ども宿泊研修は、当日大雨のため中止とした。</p> <p>健全育成啓発事業として、基本的な生活習慣を身につけることを目的に「早寝、早起き、朝ごはん」カレンダーを作成し、市内の幼稚園、保育園の園児、小・中学生の家庭に配布するなど、意識の高揚を図った。この取組みについては、文部科学大臣表彰を受けた。</p> <p>子どもクラブ事業として「子どもクラブ球技大会」があるが、参加クラブが年々減少傾向にあり、今後の大会運営が危惧される。</p> <p>5.生涯学習の充実</p> <p>公民館主催の各種講座について、年齢別にターゲットを絞りニーズにあったものを開催したが、参加者の減少が多くなった講座も見受けられた。今後は地域の課題解決等時代の求めるプログラム設定を意識していく必要がある。</p> <p>また、自治公民館建設補助事業・自治公民館ユニバーサルデザイン（トイレ洋式化）補助事業の推進や、牛津公民館改修工事及び旧牛津庁舎北駐車場用地購入に着手。移転予定の桜岡支館を除く小城公民館の3支館男子トイレには、佐賀県身近なユニバーサルデザイン(トイレ洋式化)推進事業を利用して洋便器を設置し、よりよい環境づくりに取り組んだ。</p> <p>移転が決定した小城公民館含め他の公民館について老朽化が進んだものがあり、安心して使える施設への対応を行ってきており、今後もその必要がある。</p> <p>社会教育団体である地域婦人会の会員減少傾向は止まらず、今後も尚一層の支援が必要と考える。文化連盟への支援は適時に十分に行っている。</p> <p>6.生涯スポーツの充実</p> <p>小城市スポーツ推進委員49人の活動に対する支援、サガン鳥栖交流事業、全国・九州大会等出場費補助事業、夏の学校施設プール開放事業等を積極的に実施し、参加（関係）者などに一定の成果を見た。</p> <p>また、小城体育センター、三日月体育館、牛津体育センター、芦刈文化体育館等の社会体育施設の経年劣化等による維持管理（修繕）事業は、適時適切に対応し、利用者の利便性の向上や安全で快適な施設の維持に努めた。</p> <p>（一財）小城市体育協会に、社会体育施設8施設を指定管理（H23～H27）として5年間委託している。このことについて、特に問題はないが、一層のサービス向上と自主財源の確保など、自助努力をお願いし、また支援していきたい。</p> <p>7.芸術・文化の振興と文化財の保護・活用</p> <p>文化活動については、小城市文化連盟の活発な活動により、芸術まつり、文化祭、陶芸祭、等多彩な発表の場、体験の場が設けられている。</p> <p>文化連盟の組織としても、10年が経過し、記念の講演会等も実施された。</p> <p>また、文化人財バンクの制度により、小学校への講師派遣等が行われている。</p>		
<p>自己評価 総合判定</p>	<p>A 達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 不十分</p>		

<p>評価委員会による総合評価</p>	<p>「早寝、早起き、朝ごはん」カレンダーを作成し、市内の幼稚園、保育園の園児、小・中学生の家庭に配布するなど、意識の高揚を図った取組みについて、文部科学大臣表彰を受けたことは評価できるが、近年、知名度が低くなっているように感じる。このカレンダーに運動を加えて、健康や体力の維持増進を図って欲しい。</p> <p>生涯学習の充実、生涯スポーツの充実、芸術・文化の振興と文化財の保護・活用については、地域住民のニーズと時代の求めるプログラム設定をこれからも意識して取り組んで欲しい。</p> <p>ユニバーサルデザイン推進事業を利用してのより良い環境作りに取り組んだ事はとても評価できるし、各小学校校区にある小城市青少年育成市民会議の活動においても、独自の活動や興味ある活動を企画され、役員を中心として企画・実践されている。</p> <p>ただ、地域でのつながりが希薄になってきていて、地域の行事よりも塾通い、習い事或いは社会体育への参加などで、「子どもクラブ球技大会」など青少健活動への子ども達の参加者数が少ないのは残念である。保護者にもっと青少健活動に子ども達を参加するようにしてもらう手立てを考えなくてはならない。スポーツが苦手な住民も、体を動かす大切さは認識している。</p> <p>これからは、いかに体を動かす意識付けを行っていくか、また場の提供を行っていくかを考えていかねばならないと思う。また、小城市内の社会体育施設のバリアフリーを進めてほしい。車いすでの利用で、入り口までは入ってこられても、トイレの使用が不便なところがあると感じる。また、住民の寄り合い場所となる公民館の存在価値は高い。厳しい予算状況ではあるが、快適な集会所となるよう一層の配慮をお願いしたい。</p> <p>生涯学習の充実の項目で、高齢者大学の実施については佐賀市の場合、平松清風大学をはじめ、巨勢、大和と高齢者大学を実施している様子であるが、小城市の場合、今の所、実施しているという事を聞かない。</p>
<p>評価委員会総合判定</p>	<p>A 達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 不十分</p>
<p>取り組んだ事務事業全般の評価を踏まえた平成27年度以降の取組の方向性</p>	<p>生涯学習全般において、「子ども達の活発な運動」「コミュニティの形成」を意識して事業に取り組んでいく。</p> <p>スポーツ推進計画を策定する中で、施設のユニバーサルデザイン化（バリアフリー化）も考慮し、優先順位をつけながら改修等を行っていく。</p> <p>小城公民館「長寿大学」三日月公民館「晩成大学」と、高齢者を対象とした事業を長年実施しているが、評価では認知がされていないことがわかり、事業の内容、PR等について検討していく。</p>

施 策 名	5. 生涯学習の充実 7. 芸術・文化の振興と文化財の保存・活用	主 管 課	文化課
取り組んだ事業全般に関する自己評価	<p>5. 図書館利用の推進</p> <p>(1) 利用者の対象者を近隣の市町まで拡大する準備を行った。 (2) 国立国会図書館のデジタル化資料送信サービス利用の準備を行った。 (3) 学校図書館との連携、支援を行った。 (4) 第二次小城市子どもの読書活動推進計画の策定を行った。 (5) 牛津分室の移転準備を行った。 (6) 魅力ある図書館づくりに努めているが、図書館利用（貸出点数、利用者）が減少傾向にある。</p> <p>7. 芸術・文化の振興と文化財の保存・活用</p> <p>(1) 伝統芸能団体の発表の機会を設けることができた。団員不足や指導者の不在等で活動を縮小、休止する団体がある。 (2) 高度芸術鑑賞の機会を2回設けたが反響がよく多くの参加者があった。 (3) 埋蔵文化財の調査件数が増加傾向にあるが、開発側との調整に努め、期限内に調査を終了することができた。遺跡調査の見学会、展示会を行い調査成果を公開した。 (4) 星巖寺の史跡指定を行った。文化財収蔵施設の一元化・確保を進めた。 (5) 書に親しむ日を開催し、幅広い年齢層で多くの参加者を得た。 (6) 梧竹研究資料の「日野佐々木研究資料」の刊行を行った。 (7) 梧竹デジタルミュージアム開設に伴う釈文づくりを進めた。 (8) カルピス（株）から譲られた鎮國之山銅碑複製の移設（天山八合目）を行った。 (9) 中林梧竹翁顕彰会と連携し席書会を行った。</p>		
自己評価総合判定	A 達 成 B おおむね達成 C やや不十分 D 不 十 分		
評価委員会による総合評価	<p>図書館利用の推進については、利用者の対象者を近隣の市町まで拡大する準備、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービス利用の準備学校図書館との連携・支援、第二次小城市子どもの読書活動推進計画の策定、牛津分室の移転準備を行うなど、色々な角度からの推進に力を注いでいる様子が見える。しかし、図書館利用（貸出し点数、利用者）が減少傾向にあり、図書館の未利用者へのPRが必要である。また、図書館の新刊図書を購入に際して、利用者の意見をもっと取り入れて欲しい。読みたい本が早く手に入る方法はないかの検討も必要である。</p> <p>市民の教養を保证する機会としての図書館の存在は大きい。夏休み・冬休みの子どもの居場所として利用されていると思うが、長居しにくい雰囲気がある。本をじっくり読んだり、静かに学習したりするスペースがほしい。これまで多くの学習の機会を提供してきた図書館が、ますます利用しやすい施設となることを願う。</p> <p>芸術・文化の振興と文化財の保存・活用については、伝統芸能団体の発表の機会を設けることはできたが、団員不足や指導者の不在等で活動を縮小、休止する団体があり、対策を講じる必要がある。高度芸術鑑賞の機会を2回設け、多くの参加者があったことは評価できるし、年3～4回開催など検討して欲しい。</p> <p>増加した埋蔵文化財の調査を終了し、遺跡調査の見学会、展示会を行ったことや星巖寺の史跡指定を行い、文化財収蔵施設の一元化・確保を進めたことはおおむね評価できる。</p> <p>中林梧竹の顕彰継承を中心とし、書に親しむ日を開催し、幅広い年齢層で多くの参加者を得たことは評価できる。「席書会」「書に親しむ日」は継続して開催される事に大きな意味があると思う。梧竹研究や資料充実のために諸種の活動を実践し、一人でも多くの子どもたちや市民が、梧竹や小城市の偉人たちに関心を持ち、小城市の歴史に興味を持って、郷土を誇れる市民に成長して欲しいと願う。</p>		
評価委員会総合判定	A 達 成 B おおむね達成 C やや不十分 D 不 十 分		

<p>取り組んだ 事務事業全 般の評価を 踏まえた平 成 27 年度 以降の取組 の方向性</p>	<p>図書館利用の推進は、図書館の未利用者へのPRは、市広報紙やホームページなど積極的に行っていく。イベント開催などは、マスコミなどで紹介していく。図書のリクエストがあると原則として購入するか、他の図書館から相互貸借により提供しているが、リクエストができることを、利用者にもっと知ってもらうよう方法を工夫し、紹介していく。利用者が気がねなくゆっくり読書ができるような居場所となるよう努めていく。</p> <p>芸術・文化の振興は、伝統芸能団体の発表の場の創出や活動状況のPRに努める。高度芸術鑑賞事業は年2開催を確保するよう努めていく。</p> <p>文化財の保存・活用は、屋根のない博物館構想に基づき引き続き説明板や案内板を設置していく。ウォーキング等の公開イベントも検討し、効果的な情報発信が行なえるようにする。埋蔵文化財の発掘調査は、開発者と協議を行い、事業が円滑に進むよう努力する。発掘調査により出土した資料は市民や子供達をはじめとして、わかりやすく多くの目に触れる機会を増やしていけるよう検討する。指定文化財の維持管理公開等は管理者、関係課等と十分な協議を行い滅失や荒廃等につながらないようにしたい。また小城市にとって貴重な文化財等は調査・指定を行い、整備を検討していく。</p> <p>中林梧竹顕彰事業については、梧竹デジタルミュージアムにより梧竹の業績を全国に発信していく。また、梧竹顕彰会と連携しながら席書会、書道展、書に親しむ日を開催し、伝統的な書の文化の普及に努める。</p>
---	--